

「伊勢崎市総合計画後期基本計画案」に関するパブリックコメント手続の結果

意見の募集期間	平成22年5月1日 ~ 平成22年5月31日
意見の提出者数	3人
意見の件数	3件
意見の要旨の数	17件
担当部課	企画部企画調整課
電話	0270-24-5111 (内線5408)
ファックス	0270-23-9800
電子メール	kikaku@city.isesaki.lg.jp

伊勢崎市総合計画後期基本計画案に関するパブリックコメント手続（市民意見提出手続）を平成22年5月1日から平成22年5月31日まで実施し、3名の方から延べ3件のご意見・ご提案をいただきました。

寄せられたご意見等の要旨を分類し、関係施策別にまとめると、17件で、これらについての「市の考え方」を次のとおり公表します。

寄せられたご意見等の要旨とそれに対する市の考え方について次のとおり公表いたします。

1 「4-1-2 スポーツ・レクリエーションの推進」についての意見等

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方
1	赤堀多田山地区に誘致する県営サッカースタジアムについて、観客席数など施設規模をどの程度のを想定しているのでしょうか。	<p>ザスパ草津がJ1に昇格した際のホームスタジアムという想定であるため、J1最低基準である15,000人以上収容規模と考えられますが、県営施設ですので、最終的には県が施設規模等を決定するものです。</p> <p>なお、本市では、県へ設置要望する際の事前調査(スタジアム規模等)を実施する予定です。要望の際には設置可能なスタジアムの規模等を提案していきます。</p>
2	赤堀多田山地区に県営サッカースタジアムを誘致することを再考すべきである。 例えば、あずまサッカースタジアムのスタンドを改修し、有効活用することが得策だと考える。	<p>ザスパ草津は県内唯一のJリーグのプロサッカーチームであり、そのホームスタジアムを想定しているため、本市が費用を負担してスタジアムを改修(スタンド増設等)し、施設を整備することは考えていません。</p> <p>あくまでも県が中心となって施設整備等によりザスパ草津を支援し、県民が誇りを持って応援できる環境づくりが重要だと考えます。</p>
3	あずまスタジアム(野球場)をプロ野球の公式戦が開催できる規模への改修を要望する。 具体的には、3万人収容可能なスタンドに改修し、プロ野球公式戦を誘致する。	<p>現在、華蔵寺公園運動施設内に公式戦のできる伊勢崎市野球場(観客収容人員1万人)が既存することから、現段階ではあずまスタジアムの改修は考えておりません。</p>

4	<p>健康志向の高まりから、手軽にできるランニングやウォーキングが人気を集めている。</p> <p>それらを生涯スポーツとして推進することで、介護予防やメタボの解消など健康づくりにつなげてはいかがでしょうか。</p> <p>ウォーキング・自転車を含めて、“ランニングのまちいせさき”をPRできればよい。</p>	<p>市民の皆さんが、自らの健康を考え実践する日として、毎月第一日曜日を「健康の日」と定め、『はつらつ健康教室～ウォーキング・ジョギングで気分爽快～』を開催し、気軽にできる運動なども紹介しております。</p> <p>今後も本事業の定着を図りつつ、次の取組を模索してまいります。</p>
5	<p>トップアスリートの育成をめざして、子どもたちの基礎体力を強化するための環境づくりに取り組んで欲しい。</p> <p>例えば、多自然型の大規模公園にクロスカントリーコースを整備するなど。</p>	<p>子どもたちの基礎体力を高められるよう、学校をはじめ各競技団体と連携を図り、指導、実践してまいります。</p> <p>また、トップアスリートの育成は各競技団体の目標であり、各々の団体で指導者の育成や指導体制の充実を図っております。</p> <p>環境づくりについては、既存の体育施設や公園を有効に活用していただきたいと考えております。</p>
6	<p>広瀬川（親水公園内）にカヌーやカヤックなどを楽しめる水辺環境を整えて欲しい。</p> <p>これらは自然と触れ合いながらのスポーツであり、環境教育の充実と競技性の追及が図れる。</p>	<p>広瀬川（親水公園内）は一級河川であり、地形の変更や利活用については、河川管理者（群馬県）との協議が必要であるため、常設施設の整備は難しいと考えられます。</p> <p>なお、毎年カヌー教室を境プールと広瀬川で開催し、普及に努めております。</p>

2 「8-1-3 活力ある中心市街地の整備・8-1-4 幹線道路の整備・8-2-1 生活道路の整備」についての意見等

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方
1	<p>歩行者や自転車にやさしい安全な道路・歩道整備を要望する。（車歩道の分離と段差解消、自転車レーンの設置など）</p> <p>公共交通機関の集結する伊勢崎駅周辺地区をモデル地区としてはいかがでしょうか。</p>	<p>本市では、交通バリアフリー法に則った伊勢崎市交通バリアフリー基本構想が策定されており、伊勢崎駅を中心とした地区では、重点整備地区として位置付け、駅前周辺の整備の進捗に合わせ、安全な道路・歩道整備を進めています。なお、今後の歩道整備の中で、路面表示等による自転車と歩行者の分離も検討していきたいと考えております。</p>

3 「8-2-2 適切な生活排水処理の推進」についての意見等

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方
1	<p>現況と課題に記載されている「汚水処理計画」自体の見直し・修正が必要である。</p> <p>具体的には、下水道事業の遅れから、下水道区域内でも浄化槽の設置がかなり進んでいるため、整備手法別の計画区域（面積）の割合を見直すべきである。</p>	<p>効率的な汚水処理を推進するため、人口減少等の社会情勢の変化に応じて、下水道、農業集落排水、浄化槽区域の見直しを行いたいと考えております。</p>

2	<p>現況の数値として示されている平成20年度汚水処理人口普及率(54.8%)は国(84.8%)県(70.0%)と比較して低すぎる。</p> <p>平成26年度の目標値75.5%では、県の平均値以下ではないか。このままでは都市の品格が疑われる。</p>	<p>汚水処理計画上で人口比約90%を占めている下水道区域の事業進捗率が低いために、全体の汚水処理人口普及率が低くなっております。</p> <p>整備手法別の計画区域の見直しも含めて効率的な汚水処理整備を行い、目標値をなるべく早く達成するよう努めてまいります。</p>
3	<p>生活排水処理対策が充実していると思う市民の割合が約48%に対して、(基本計画案には記載はないが、)平成20年度河川水質基準達成率(33%)は国(92.3%)県(87.5%)と比較して低すぎる。</p>	<p>生活排水処理対策に対する市民満足度の割合がもっと上がるように、また、河川水質基準が達成できるように、汚水処理整備を推進したいと考えております。</p>
4	<p>下水道事業には莫大な費用と長期の事業期間がかかること、また、接続後には高い使用料がかかることを市民は知らないのでしょうか。</p> <p>汚水処理施設のうち下水道整備と浄化槽設置の事業投資額を比較した数値を示すことが必要である。</p>	<p>限られた予算の中で、コスト縮減を図るとともに効率的に整備を進めたいと考えております。</p> <p>下水道使用料については、整備地区毎に説明会等を開催し、理解をいただいております。</p> <p>また、整備手法別の経済比較については、国の「統一的な経済比較のできるマニュアル」を参考にして、合併前の全市町村及び合併後の伊勢崎市でも、汚水処理計画を作成してきました。今後、下水道区域等の見直し等を行う場合は、説明会等で関係者に経済比較等を示していきたいと考えております。</p>
5	<p>浄化槽既設家庭では下水道施設を配管しても切り替えて接続する割合は低い。</p> <p>そこで、本市の状況を考慮すると、有効な施策展開は下水道整備の推進ではなく、浄化槽の設置促進ではないのでしょうか。</p>	<p>浄化槽から下水道への接続に対する補助金や融資制度について、説明会やイベントでのリーフレットの配布等による広報啓発活動を積極的に進め、接続の促進を図っております。</p> <p>現在、整備を進めている下水道整備区域は、地域にあった効率的な整備手法と考えておりますが、下水道事業は計画範囲が広く、整備期間も長いために、人口減少等の社会情勢の変化の推移を考慮し、必要に応じて区域の見直しを図るなど、効率的な汚水処理の整備を促進したいと考えております。</p>
6	<p>施策の展開にある「公共下水道区域と農業集落排水区域における水洗化の促進」とあるのは「接続の促進」と表現を改めた方が適切ではないのでしょうか。</p> <p>浄化槽の場合は接続率100%である。</p>	<p>「水洗化の促進」ではあいまいな部分がありますので、「接続の促進」に表現を改めます。</p>
7	<p>施策の本来の目標は、汚水処理人口普及率ではなく、汚水処理率の方が適切ではないでしょうか。</p> <p>平成20年度汚水処理率は45.9%で、半</p>	<p>実際に汚水処理をしている人口に着目した場合は、汚水処理率を指標とすることも考えられますが、行政は、汚水処理計画に則って事業を推進していることから、事業の進捗度を捉え</p>

分以上の家庭で雑排水をそのまま流していることであり、市民のモラルが問われる。	た汚水処理人口普及率（総人口に占める汚水処理施設を利用可能な人の割合）にしました。
--	---

4 「9-1-1 持続可能な農業の振興」についての意見等

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方
1	畑地帯の有効活用例として、佐波伊勢崎農業協同組合と連携してコンテナハウス農業への取り組みを進めたらどうでしょうか。	<p>コンテナハウス農業は、農地や太陽光など自然から遮蔽されたコンテナという閉鎖空間を利用して、農地の無い都市部で葉物などを栽培するための“野菜工場”とも言うべき施設で、病虫害を防除しやすく、農薬の使用量を減らせるなど利点もありますが、いくつかの課題もあります。</p> <p>水耕栽培のために化学肥料が作物に残留する可能性が高いこと、葉物野菜が中心であること、導入費用が1台1,000万円前後で電気料等の維持管理費用も高いことなどが挙げられますが、肥沃で広大な農地を効率的に利用する本市の農業に適しているのか検証する余地があるので、地元農業協同組合と連携して調査研究に努めてまいります。</p>

5 「9-2-1 魅力ある観光の振興」についての意見等

番号	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方
1	<p>平成23年4月に北関東自動車道が全線開通し、日本海と太平洋が結ばれる。</p> <p>これを機に波志江スマートインターチェンジ周辺の開発・活性化を図っていく必要がある。例えば、大規模な鮮魚市場の誘致など。</p>	<p>北関東自動車道の全線開通は、市外からの集客増を図るには絶好の機会だと思います。</p> <p>そのため、インターチェンジ周辺の開発・活性化は欠かせないものであり、市としても波志江沼環境ふれあい公園の有効利用や民間活力の導入を含めた新たな観光資源の発掘・活用を図っていきたいと考えています。</p>
2	<p>気楽にフルマラソンを楽しめる「マラソンピクニック」を共同開催するよう提案します。</p> <p>すでに、ある団体では、市内の大規模公園とサイクリングロードを結び、体力に合わせた複数の周回コースを設定し、実施しています。</p> <p>そのコースの途中で地域の名物や特産物の販売、伝統芸能の発表などイベントを共催して、市内外から参加者を募ってはいかがでしょうか。</p>	<p>健康に対する関心が高まっている昨今、誰でも気軽に健康づくりに取り組めるものとして、ジョギング・ウォーキング等は人気が高まっています。</p> <p>本市としてもその点に注目し、イベントに併せたウォーキング大会や伊勢崎市民マラソンなど、市内外から多数の参加者を得ております。</p> <p>今後もさらにコースの充実や新コースの設定、手法等を検討し、イベントと併せた開催を行うことにより、集客増を図っていきたいと考えております。</p>